

特定非営利活動法人 東海自然学園  
2019 年度 総会議案書

日時：2019 年 6 月 19 日（水）13 時 30 分  
会場：神田荘

議事次第

- 1、 開会
- 2、 代表理事挨拶
- 3、 議長選任
- 4、 審議事項
  - 第 1 号議案 2018 年度事業報告の件
  - 第 2 号議案 2018 年度収支決算報告の件
  - 第 3 号議案 2019 年度事業計画の件
  - 第 4 号議案 2019 年度収支予算計画の件
  - 第 5 号事案 2019 年度役員選任の件
- 5、 質疑及び討論・採決
- 6、 閉会

## <第1号議案>

# 2018年度事業報告

(2018年4月1日～2019年3月31日)

### 【2018年度方針】

#### ◎ 『会員間の繋がりを深め、その力を活かした活動を！』

15年間の活動継続により会員数が450名を超えた。ここで改めて会員間の距離を縮め、互いに協力し合うことで何か新しい力を起こすきっかけをつくり、活動の幅を広げる。

- 昨年度(1月)、新規事業科が全会員を対象に実施した「卒業生 活動アンケート」の結果を、次のステップに繋げるため、9月イーブルなごやにて「地域活動中の卒業生、意見交換会」を開催。初めて卒業生と学園スタッフとが直接意見や情報を交わす機会をつくることのできた。
- 「意見交換会」で得た卒業生の地域活動情報をケヤキ通信に掲載し、全会員に伝えたことで、共感した人や、近隣の人が活動メンバーに加わるなど、会員間の新しい繋がりをつくることのできた。
- 今回の「活動アンケート」「意見交換会」の実施により、学園としても卒業生が各地でどのような活動に努め、活躍されているのかを把握することができた。今後更に卒業生の活躍に学園として何ができるのか、また共にできることなどを模索し、新たな挑戦に繋がりたい。

## ① 自然活動リーダーの養成講座事業

### 東海シニア自然大学 講座部

※今年度より、基礎科各組・高等科の定員を35名から1名増やし36名に変更。

#### ■基礎科

●定員いっぱいの花組(36名)、星組(36名)で講座をスタートした。

●合宿・学園祭・修学旅行を含め、全30回の講座を実施。

#### ◇実施日

- ・花組 第1・第3金曜日
- ・星組 第2・第4金曜日

#### ◇担当

- ・花組 スタッフ4名、アシスタント2名
- ・星組 スタッフ4名、アシスタント2名

#### ◇修了者・皆勤者数

- ・花組 31名 ◎1年間皆勤8名
- ・星組 33名 ◎1年間皆勤4名

#### ◇資格取得者(自然観察アドバイザー)

- ・花組(3名) ・星組(5名)

#### ◇高等科への進学者数

- ・34名(+OBより1名)

#### ◇内容報告

- ・休学者、退学者があるが、それぞれ個々の事情(健康上の理由など)によるものだった。
- ・講座中の転倒による骨折(ヒビ)があった。昨年度からの徹底により、事故後の報告や分析、対処法などを全スタッフで話し合い、事故防止や対処法の共通認識を深めた。
- ・毎年合宿の宿泊先として利用している「おんたけ休暇村」が利用できなく、新しい宿泊先

として「大芝荘」を利用。特に大きな問題はなく「水木沢天然林」での実習とともに交流を深める良い合宿ができた。

- ・ 下記の講座は講師、フィールドの変更があったが、大きな問題なし。新しい講師の得意分野を活かした講座となり、受講生の評価も概ね良好であった。

(変更理由：講師からのご要望、フィールドの安全確保)

【河川の生き物】フィールドの変更

- 矢作川本流⇒支流の籠川

【身近な野草】講師、フィールドの変更

- 櫻井玲子先生 (フィールド：小幡緑地) ⇒ 渡辺滋子先生 (フィールド：豊田市民芸の森)

【地層・地質入門】講師、フィールドの変更

- 加藤久美先生 (フィールド：木曾川) ⇒ 森勇一先生 (フィールド：東谷山)

#### ◇委員会活動

【企画委員会】

- ・ **花組** 〈日帰り企画〉 9/28 (金) 葦毛湿原と岩崎自然歩道にて自然散策 (26名参加)  
〈修学旅行〉 鳥羽水族館見学と熊野古道 (馬越峠・松本峠) の散策 (27名参加)
- ・ **星組** 〈日帰り企画〉 9/7 (金) 日間賀島にて会食、散策 (21名参加)  
〈修学旅行〉 トヨタ白川郷自然学校にてスノーシュー体験、白川郷見学 (24名参加)

【観察記録委員会】

- ・ 両クラスともに個人の観察記録を立派な冊子に仕上げ、報告会にて発表した。

【学園祭委員会】

両クラスともに委員会を中心にクラス全体で取り組み、ステージ発表、展示、ワークショップに挑戦した。ステージ発表では班ごとに歌、クイズ、劇、研究発表など、様々な切り口で自然をテーマにした発表があり、学園祭を大いに盛り上げた。

- 実施日：11月21日 (水)・22日 (木)

- 会場：愛・地球博記念公園内 地球市民交流センター

- ・ **花組** 〈ステージ〉『生き物の不思議？半端ないって！』  
〈展示〉『生き物の不思議？半端ないって！』  
〈ワークショップ〉『作ってみよう！あなたの“はらぺこ青虫”』
- ・ **星組** 〈ステージ〉『私たちの見つけた自然』  
〈展示〉『私たちの見つけた自然』  
〈ワークショップ〉『落ち葉で栞作り』

### ■高等科

- 36名の受講生でスタートし合宿・学園祭・修学旅行を含めて全30回の講座を実施した。

◇実施日 火曜日

◇担当 スタッフ (5名)

◇修了者数

- ・ 35名 ◎2年間皆勤者 (9名) ◎1年間皆勤者 (12名)

◇資格取得 (自然観察上級アドバイザー)

- ・ 13名

◇実施内容

- ・ 1年間を通して事故やトラブル等の問題などなく、安全に全講座を実施することができた。
- ・ 下記の講座を変更した。(変更理由：講師の交代希望、受講生からの声やスタッフの提案)

①【身近な野草】

- 百合草信夫先生：美浜町民の森 → ● 榊原靖先生：義朝の森

②【植物を知る②海浜植物の生態】

- 浜島繁隆先生 → ● 中西正先生 ※フィールドなどは変更なし

- ・ 上記以外の講座でも、より内容の充実を考え下記を変更した。

- 【救急処置を学ぶ】【クラフトを楽しむ】 → 会場を交通の便を考慮して変更。

- 【昆虫と菌類の共生】 → バスの往復時間も講義を実施。

## ◇委員会活動

### 【企画委員会】

- ・（日帰り企画）9/18（火）内藤記念くすり博物館と世界淡水魚園水族館の見学（32名参加）
- ・（修学旅行）3/11・12 淡路島（渦潮見学）・淡路はなさじきにて観察ほか（31名参加）

### 【観察記録委員会】

- ・委員会が中心となり全員の観察記録を冊子にまとめ完成させた。

### 【学園祭委員会】

第7回学園祭のテーマ「さがそう！自然の不思議と魅力」を決定し、委員会メンバーを中心に盛り上げた。

- 実施日：11月21日（水）・22日（木）
- 会場：愛・地球博記念公園内 地球市民交流センター
- ・〈ステージ〉『自然に好奇心！』
- ・〈展示〉『面白い形の実とドングリ』
- ・〈ワークショップ〉『自然の恵みでストラップや竹細工』※数種類の自然クラフトを展開

## ■カリキュラム選択科

今年度は下記の科目に選択科参加があった。

- ・「湿地を知る」北山湿地 1名
- ・「昆虫と植物の関係」海上の森 1名
- ・「地質めぐり①」名古屋城 1名
- ・「昆虫と菌類の共生」稲武 1名
- ・「地質めぐり②」知多半島 3名
- ・「中部の植物観察①」森林公園 1名
- ・「身近な哺乳類」鳳来寺山 1名
- ・「インタープリテーション①」東山動物園 2名
- ・「中部の植物観察②」阿智村 1名
- ・「どんぐりをとことん極める」豊田市自然観察の森 3名
- ・「身近な野鳥」岩藤新池 1名
- ・「クラフトを楽しむ」東生涯学習センター 1名

## ■専修科

◇担当 4名

### ◇実施内容

- ・計画通り合計8講座、13日の講座を開催した。（内1泊講座2回）
- ・前年に比べ、1講座増やしての実施だった。どの講座も受講生の評価は良かった。
- ・来年度に向け更なる円滑な運営方法、更なる新鮮なカリキュラムへ改善するため、プロジェクトチームを立ち上げた。

## 広報

◇担当 スタッフ（4名）、サポート隊（3名）

サポート隊及び他のスタッフとの連携により「パンフレット発送」「イオン・イエローシート活動」「環境デーなごや」などの活動に取り組むことにより、学園知名度の向上、16期生の定員確保に繋げることが出来た。

### ◇実施内容

#### 《第16期生募集》

- ・16期生募集パンフレットの発行部数を見直しA4版 20,000部のみとした。（A5版は取り止め）
- ・東海地方の公共施設などへのパンフレット発送を2回に分けておこなった。
  - 1回目（6/22）＝7,840部 ●2回目（10/2、3）＝9,940部
- ・16期入学者は、前年度からの待機もあり12月中に定員を超えた。（過去最速での満員）
- ・元旦の中日新聞テレビ欄の広告は、満員御礼の内容で掲載した。

- ・体験入学 : フィールド=小幡緑地、座学=守山スポーツセンターにて開催した。  
講師=櫻井玲子先生(1期生)、1回目=12月10日、2回目=1月22日

### 《学園広報活動》

- ・イオン・イエローレシート活動  
「イオン・ナゴヤドーム前店」「マックバリュー・有松駅前店」に登録し、イオン・ナゴヤドーム前店での店頭活動は10回参加。会員からのレシートの協力もあり48,200円のギフトカードを戴き、文房具・三角巾などと引き換えた。
- ・「環境デーなごや」には9月15日に広報活動を目的とし8名参加した。
- ・日本自然保護協会「ネイチャーナビ」や、中日新聞「行催事案内」に「天白公園自然観察会」「学園祭」などの掲載依頼をし、数回掲載された。
- ・朝日新聞「エコロジカルアクション」欄に3回掲載された。

## ② 普及啓発事業

### 環境教育部

#### ■環境教育科

◇担当 4名

◇科員 36名

◇目的

自然の仕組みや魅力、楽しさや大切さを伝える。

◇今年度の年間目標

- ・目標① 過去の作品やその作り方手順・必要な材料などを整理して残す。
- ・目標② ワークショップの対象者の枠を広げる。
- ・目標③ 作り方指導だけではなく、素材そのものの説明や情報を伝える工夫をする。
- ・目標④ 当学園の広報に繋がる工夫を取り入れる。
- ・目標⑤ 新たな技術やアイデアを生み出すため、講習会や見学会などの時間をつくる。

◇実施内容

- ・定例活動・・・21回 (第2・第4水曜日) ※前年度17回

◇年間活動実績

#### 参加した受託事業や行事

- ・戸田川緑地「さくらまつり」【4/14土～4/15日】
- ・障害者福祉施設Fit引山【5/25金】
- ・障害者福祉施設Fit千種【5/30水】
- ・障害者福祉施設Fit松葉公園【6/6水】
- ・大曾根商店街七夕まつり【7/27金～7/29日】
- ・戸田川「秋まつり」【10/6土～10/8月】
- ・学園祭作品展示【11/21水～11/22木】
- ・なごや環境大学「共育講座」～森歩き&リサイクル工作～【10/31・11/7・11/14・11/28】

#### 実施した研修

- ・素材採取と自然観察 in 中津川の森【5/9水】
- ・竹の皮を使った工作(イノシシ親子)を、メンバーの指導により作成【11/28】
- ・マダケの確保(伐採・枝打ち・玉切り)と自然観察【1/23水】

◇目標の達成度

#### ◆目標① 過去の作品やその作り方手順・必要な材料などを整理して残す。

- ・過去や現在の作品を写真に撮り、作品集として1冊のファイルにまとめた。このファイルは活動の歴史(実績)であり、また、活動紹介の資料としても有効に利用できる。

◆ 目標② ワークショップの対象者の枠を広げる。

- ・ 障害者支援施設 3 箇所で、自然工作ワークショップを実施することができた。

◆ 目標③ 作り方指導だけではなく、素材そのものの説明や情報を伝える工夫をする。

- ・ 様々な自然素材（石・実・種・竹・枝など）で作った作品を1つの箱に並べて展示できる「展示 BOX」を作成した。素材説明までは至らないが、自然素材への興味を深める一つのアイテムとして、イベントなどで威力を発揮した。

◆ 目標④ 当学園の広報に繋がる工夫を取り入れる。

- ・ 新しい看板を手作りで作成したが、もう少し広報に繋がる工夫を加えていきたい。

◆ 目標⑤ 新たな技術やアイデアを生み出すため、講習会や見学会などの時間をつくる。

- ・ 仲間の中で指導者を担ってもらい、講習会（竹の皮をつかったクラフト）を実施することができた。
- ・ また、マダケの伐採実習や中津川での木の実採取実習など、これまでにない試みにも挑戦できた。

◇今年度の前進面

- ・ 年度初めに掲げた目標 5 つを、ほぼ達成することができた。
- ・ お客様、メンバーを含め、大きな怪我やトラブルなどなく、安全に活動することができた。
- ・ 事務所が移転し定例活動が事務所でするようになり、準備や運搬にかかっていた時間や労力がなくなった。
- ・ 事務所移転を機に、素材や過去の作品などを整理整頓し直すことができた。

◇今年度の問題点

- ・ 倉庫がない状況が続き、材料確保（保管）ができていない。（手元にある材料が乏しい）
- ・ 新しい作品の展開が必要となってきた。（毎年同じイベントに出展するため）
- ・ 同じ作品を毎年作っていても、毎回パーツの寸法や手順で混乱している。きちんと作品の作り方手順や寸法を統一しておく必要がある。

◇来年度に向けての提案

- ・ 機械や道具の扱い方の見直し。（安全第一）
- ・ 作品の作り方手順・材料の寸法などを統一し、資料として保存しておく。
- ・ 学園の広報に繋がる工夫を積極的にする。

③ 調査研究事業

研究部

■自然観察科

レギュラーコース 4 年卒業制を導入し、「レギュラーコース（在籍 4 年以下）」と「キャリアコース（在籍 5 年以上）」に分割してそれぞれに運営。

レギュラーコース

◇実施日 第 2・4 月曜日

◇担当 2 名

◇人数 28 名

◇目標 お互いに学びあい知識を深める。

◇活動内容

●座学

- ・ 回数については、特段の問題はなし。
- ・ 発表という形なので構えてしまう人もいた。

●フィールド

- ・ 計画は 12 回だったが、9 月に一度雨天で中止となった。
- ・ 担当班が案内したが、皆で意見を出し合いながら観察した。

◇総括

出席率 69%

- ・欠席する回数が多い人があり、確実な運営が追い付かなかった
- ・連絡係の負担軽減もあり、メール配信で済む部分を選びなおし、平成30年度より、運用することにした。
- ・班編成の参考とするため、予め多く休む予定がある人は事前に申告をお願いした。

#### キャリアコース

◇実施日 第2・4月曜日

◇担当 1名

◇人数 27名

◇目標 お互いに学び合い知識を深める。

◇実施事項

●フィールド15回 ●天白公園観察会6回（下見も含む） ●基礎科講座「冬の森の観察」  
築水の森にて4回（下見、リハーサルも含む）実施。

- ・4月 平和公園、竜吟の森
- ・5月 天白公園観察会 小幡緑地
- ・6月 陶史の森 城山
- ・7月 天白公園観察会 伊吹山
- ・8月 合同講座
- ・9月 海上の森 段戸裏谷
- ・10月 天白公園観察会 阿寺溪谷
- ・11月 山路の森
- ・12月 金華山観察会
- ・1月 受託講座下見、リハーサル
- ・2月 受託講座
- ・3月 木曾川河畔七宗本谷の観察会を実施

◇総括

キャリアコースは自主的に計画を立て、自然観察科の目的である自分自身の学習意欲を高め、社会貢献できるよう学習、実践を行なうことができた。

### ④政策についての企画提案事業

#### 事業部

##### ■新規事業科

◇担当 4名

◇実施内容

#### 1. OBとの連携活動

- ・前年度にOBを対象で実施した地域活動アンケート調査と意見交換会での声を受け、各組織の活動状況やイベント情報を「ケヤキ通信」で発信した。この情報を機に地域活動への新たな参加者も得られている。

#### 2. 助成金獲得活動

- 「公益信託 オータケ記念愛知県自然環境保護基金」に申請し助成が決定した。
- ・活動名：自然素材を活かした環境教育活動による自然保護の普及、啓発活動
- ・助成金額：20万円…環境教育科関係の器材・工具などの購入に充てる予定。

#### 3. 行政との関わり

- 1) 愛知県環境部関係者との繋がりができた。
  - ・5/29 学園に来訪
  - ・11/21 学園祭に来訪
  - ・「オータケ基金」の助成金申請の情報を受けて申請できた。
- 2) 環境教育科の活動として「なごや環境大学」に講座を設定して参加。

## 交流部

◇担 当 4名

### 【OB 交流ツアー】

今年度は事務所移転があり、「OB ツアー」の実施ができなかった。

### 【あらくさの発行】

例年通り、高等科・基礎科の「編集委員会」メンバーの協力のもと、年4回発行した。

### 【クラブについて】

#### ◇今年度の実績

- ① 10個のクラブが活動しており、その登録者数は延499名。
- ② 各クラブが年初の計画通り順調に運営され、事故やトラブルなど無く活動できた。
- ③ 学園祭には9つのクラブがブース出展で参加し高評を得た。
- ④ 7月4日（水）クラブ長会議を開催し、各クラブ長からの意見・提案等協議した。

#### ◇目標と達成

会員数の増加に伴いクラブの増加を模索したが出来なかった。

#### ◇来年度の向けての改善策

新規クラブの立ち上げをPRし、クラブ増加を推進する。

#### ◇各クラブの活動報告

##### 「野鳥クラブ」

●クラブ長 加藤 辰夫（11期） 登録人員34名 会費1,000円/年

##### ●活動方針

- ・探鳥会を年に四回開催を計画する、
- ・野鳥観察への興味を深めるため、第2回野鳥講座（座学）を企画する、
- ・秋の学園祭にクラブとして出展するための準備を夏ころから始める。

##### ●活動内容

- ・5/20「岩屋堂公園」 ・8/7「第2回野鳥講座」 ・12/20「庄内緑地」
- ・1/31「藤前干潟」 ・3/5「平針荒池緑地・総会」

##### 「写真クラブ」

●クラブ長 嶋田 茂雄（9期） 登録人員57名 会費1,000円

##### ●活動方針

- ・自然の景観・生物、これを取り巻く生活環境等を撮影し作品作りを楽しむ。
- ・活動への参加を通じて会員相互の交流と親睦をはかる。

##### ●活動内容

- ・4/18「犬山国際センター・犬山城他」 ・5/9「安城デンパーク」
- ・5/23「初歩の写真教室」 ・5/30「なばなの里」 ・6/15「東山動植物公園」
- ・7/24～29「第2回写真展」・10/10「京都植物園」 ・10/15「互選会と産品勉強会」

##### 「自然体験クラブ」

●クラブ長 長田 孝義（12期） 登録人員63名 会費1,000円

##### ●活動目的

- ・自然の中で遊び・学び、自然への理解を深め、或いは歴史・文化に触れることを通じて、豊かな人間性、心のかよった人と人のつながりを創り、人と自然が共存する文化・社会の意識を高めることを図る。

##### ●活動計画

- ・様々な自然の中で遊び、自然を分かち合う、
- ・野菜・山菜・木の実・魚介類等の自然の恵みに感謝する、
- ・歴史・文化・自然に関する史跡・遺産等の訪問、
- ・その他目的を達成するための活動、

##### ●活動内容

- ・5/17「総会と寝覚の床、赤沢自然休養林」 ・9/20「小原和紙の里」
- ・11/29「そば打ち体験と岩村城址」 ・2/21「おっばら自然体験センター」



### 「地質クラブ」

●クラブ長 福岡 潔（8期） 登録人員 71名 会費 1,000円

#### ●活動方針

・近隣の地質の成り立ちその影響を観察する。

#### ●活動計画

・年4回近隣の地質、地層を現地観察する。  
・博物館を訪問し、岩石や化石の勉強をする。

#### ●活動内容

・6/26 生物の進化と海の生き物の多様性を知る。  
・10/30 縄文の海とジュラ紀の海を地質で訪ねる。  
・1/30 地学スポット東谷山湿地の成立はいつから？  
・3/26 木曾川化石林の成り立ちと当時の植物を学ぶ。

### 「植物クラブ」

●クラブ長 知久 弘子（13期） 登録人員 81名 会費 1,000円

#### ●活動方針・目標

・観察会は学校行事の曜日に可能な限り重ならないよう、全会員にとって参加し良い開催日の設定

・五感で感じる観察会をめざして。

#### ●活動内容

・4/5「築水の森」 ・5/2「明智の森」 ・6/19「白山高山植物園」  
・7/30「駒ヶ根千畳敷」 ・8/30「伊吹山」 ・10/16「昭和の森」  
・3/5「東山植物園」 ・総会

### 「植物アートクラブ」

●クラブ長 松崎 隆（13期） 登録人員 27名 会費 1,000円

#### ●活動方針

・絵を描くことに基礎はありません、絵を描きたいという気持ちが基礎です。従って描いた絵の評価は自分自身でしか出来ません。完成した絵は、毎日見ていろいろのことを考え、感じて楽しむことです。

#### ●活動内容

・4/26「発表会」 ・5/24「野外活動」 ・6/28「小菊(精あやとり)」  
・7/26「ナデシコ」 ・8/23「各自用意」 ・9/27「スプレー菊(チャイナ)」  
・10/25「バラ(白色系 ピンク系)」 ・11/15「各自用意」  
・12/27「各自用意」 ・1/24「各自用意」 ・2/28「チューリップ」  
・3/28「発表会・総会」

### 「ふふふ キラキラクラブ」

●クラブ長 清水 修(7期) 登録人員 45名 会費 1,000円

#### ●活動方針・目標

活動の目的であります『ふふふ』の笑顔を持って会員相互の交流と親睦をはかり、『キラキラ』と輝く人生を見つけましょう。

#### ●活動内容

・6/30「桑名市六華苑」 ・9/29「木曾川昼鵜飼」 ・2/23「航空宇宙博物館他」

### 「自然句詠クラブ」

●クラブ長 本田 俊一郎（10期生） 登録人員 24名 会費 1,000円

#### ●活動方針・目標

・自然を愛（め）で、その感動を575（俳句）に表現し楽しむ。  
・メンバー全員が何らかの役割を担い、クラブの運営に主体的に参画する。

#### ●活動計画

・月1回（月末）、句を持ち寄り句会を実施する（互いに講評し合う）。  
・句会実施日に終了後、希望者で反省懇親会を実施する。  
・句会のうち、年3回程度、吟行（現地に赴き作句し句会を実施）を行う。

・一年のまとめとして句集を編集する。

●活動内容

・句会 4/25、5/30、6/29、7/25、9/25、10/29、12/26、1/31、2/28 の9回  
イーブル名古屋。

・吟行 8/31(円頓寺) 11/28(岡崎公園) 3/28(白鳥庭園)

「湿地クラブ」

●クラブ長 原田 誠(9期生) 登録人員 37名 会費 1,000円

●活動目標

・「陶史の森」の湿地定点観察会(湿地動植物および昆虫)  
・その他観察会(特徴のある湿地の観察)

●活動内容

・4/11「陶史の森」・6/15「陶史の森」・7/20「各務原自然遺産の森津保川河川敷」  
・9/10「陶史の森」・10/16「築水の森」・1/17「牧野ヶ池」

「ハイキングクラブ」

●クラブ長 栗田 博之(13期生) 登録人員 69名 会費 1,000円

●活動方針

・自然観察及び散策、町の歴史探訪を通して自然や歴史にふれあい知識を高める。  
・体力の維持及び増進。  
・活動への参加を通じて会員相互の交流と親睦をはかる。

●活動内容

・5/7「竜吟の滝」・10/11「有松宿・桶狭間」・12/1「愛岐トンネルと定光寺」  
・3/31「東山動植物園」

## ⑤自然環境保全事業

### 自然保護部

#### ■森林公園整備科

◇活動日 第2・第4木曜日

◇科員数 31名

◇年間活動日 23日(延べ353名)

◇活動実績

整備地(8.2ha)の内A地区で森林整備活動を実施

◇活動内容

・整備作業18日(天候不順で5日、学園祭等で2日中止)  
・延べ活動参加人員 351人(平均19.5人/回)  
・高等科の講座実習を受け入れ 科員13名で対応  
・植生調査を実施し、学園祭で発表  
・整備地内の植生観察の実施(2班実施、1班未実施)

◇安全への取り組み

・安全作業マニュアル読み合わせによる周知徹底  
・ヒヤリハット運動を展開し、危険予知と併せ55件の報告  
・大きな事故やケガは無かった

#### ■瀬戸里山整備科

事故の無い安全作業を最優先し、科員の増員を目標にした。

学園祭で、瀬戸里山整備科の歴史や活動報告を展示し広報した。

体験整備には7名の申し込みがあり、参加された5名が入会。更に新年度より2名が入会した。

◇担当 2名

- ◇登録者 19名
- ◇活動場所 瀬戸市曾野町
- ◇実施日 第3土曜日、但し雨天の場合は、予備日第4土曜日
- ◇年間活動日 10日 述べ参加人数・・・131名
- ◇活動内容

- ① 安全作業を最優先とし、作業前、作業後のヒヤリハットを徹底しました。
- ② 科員の増員を目標にし、7名が加盟し大幅な増員となりました。
- ③ 活動報告書を作成し、定点観測を行いました。
- ④ ロープワークの実習を行いました。
- ⑤ 学園祭への出展⇒一部課員による出典を行いました。
- ⑦ 伐採したタケを利用して、門松づくりを体験し、各自が自宅にかざりました。

### ⑥その他目的を達成するために必要な事業

該当事業なし

# <第2号議案> 2018年度収支決算報告

## 2018年度(第12期)活動計算書

平成30年4月1日から平成31年3月31日まで

特定非営利活動法人東海自然学園

科 目	金額(単位:円)		備考
<b>I 経常収益</b>			
1 受取会費			
正会員受取会費	130,000		年会費(26名*5千円) 年会費(450名*3千円)
利用会員受取会費	1,350,000	1,480,000	
2 受取寄付金			
受取寄付金	2,117,414	2,117,414	あいおい損保(39万円)、個人
3 受取助成金			
受取助成金	0	0	
4 事業収益			
自然活動リーダー養成講座事業収益	10,531,700		受講料、参加費等 受託料等
普及啓発事業収益	258,700		
調査研究事業収益	0		
政策についての企画提案事業収益	0		
自然環境保全事業収益	0		
その他目的達成するための事業収益	0	10,790,400	
5 その他収益			
受取利息	277	277	
<b>経常収益計</b>			14,388,091
<b>II 経常費用</b>			
1 事業費			
(1) 人件費			
給料手当	3,528,400		新聞広告の掲載費 パンフレット(2万部)
通勤手当	110,200		
法定福利費	558,320		
人件費計	4,196,920		
(2) その他経費			
講師謝礼金	1,680,600		
教材費	199,894		
会場費	386,178		
広報費	436,104		
リーフレット代	331,560		
講師交通費	127,302		
スタッフ交通費	1,713,640		
消耗品費	718,248		
家賃	969,346		
接待交際費	25,108		
水道光熱費	80,937		
コピー機維持費	239,588		
保険料	381,182		
通信運搬費	766,870		
諸会費	5,080		
雑費	13,824		
その他経費計	8,075,461		
事業費計		12,272,381	
2 管理費			
(1) 人件費			
給料手当	166,400		会計担当給与
人件費計	166,400		
(2) その他経費			
セキュリティ料	84,240		消費税等 税理士報酬等
福利厚生費	10,000		
事務用品費	9,979		
租税公課	238,800		
支払手数料	80,737		
事務所移転費	590,846		
雑費	32,676		
その他経費計	1,047,278		
管理費計		1,213,678	
<b>経常費用計</b>			13,486,059
当期経常増減額			902,032
<b>III 経常外収益</b>			0
<b>IV 経常外費用</b>			0
当期正味財産増減額			902,032
前期正味財産額			7,541,718
次期繰越財産額			8,443,750

## 2018年度(第12期)貸借対照表

平成31年3月31日現在

特定非営利活動法人東海自然学園

科 目	金 額 (単位:円)		
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金	20,827,534		
前払金	101,310		
立替金	360,520		
流動資産合計		21,289,364	
2 固定資産			
敷金	0		
固定資産合計		0	
資産合計			21,289,364
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金	338,944		
前受金	12,462,000		
預り金	44,670		
流動負債合計		12,845,614	
2 固定負債			
借入金	0		
固定負債合計		0	
負債合計			12,845,614
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産額		7,541,718	
当期正味財産額		902,032	
正味財産合計			8,443,750
負債及び正味財産合計			21,289,364

## 2018年度(第12期)財産目録

平成31年3月31日現在

特定非営利活動法人東海自然学園

科 目	金 額 (単位:円)
<b>I 資産の部</b>	
1 流動資産	
現金 現金手元有高	146,798
普通預金 三菱東京UFJ銀行植田支店	4,986,910
普通預金 ゆうちょ銀行	13,689,862
定期預金 三菱東京UFJ銀行植田支店	2,003,964
前払費用 次年度会場費等	101,310
立替金	360,520
流動資産合計	21,289,364
2 固定資産	
敷金 事務所賃借敷金	0
固定資産合計	0
資産合計	21,289,364
<b>II 負債の部</b>	
1 流動負債	
未払金 3月分給与・社会保険料・交通費等	338,944
前受金 次年度分受講料、年会費、助成金	12,462,000
預り金 源泉所得税、社会保険料	44,670
流動負債合計	12,845,614
2 固定負債	
借入金	0
固定負債合計	0
負債合計	12,845,614
正味財産合計	8,443,750

# 2018年度(第12期)財務諸表の注記

特定非営利活動法人東海自然学園

## 1 重要な会計方針

財務諸表の作成は、NPO法人会計基準(2010年7月20日、2011年11月20日一部改正NPO法人会計基準協議会)による

## 2 事業費等の内訳


(金額単位:円)

科目	自然活動リーダー養成講座	普及啓発事業	調査研究事業	政策についての企画提案事業	自然環境保全事業	その他目的達成するための事業	事業部門計	管理部門	合計
(1) 人件費									
給料手当	2,822,720	423,408	35,284	211,704	35,284	0	3,528,400	166,400	3,694,800
通勤手当	88,160	13,224	1,102	6,612	1,102	0	110,200		110,200
法定福利費	446,656	66,998	5,583	33,499	5,583		558,320		558,320
<b>人件費計</b>	<b>3,357,536</b>	<b>503,630</b>	<b>41,969</b>	<b>251,815</b>	<b>41,969</b>	<b>0</b>	<b>4,196,920</b>	<b>166,400</b>	<b>4,363,320</b>
(2) その他の経費									
講師謝礼金	1,610,600	70,000			0		1,680,600		1,680,600
教材費	195,527	4,367			0		199,894		199,894
会場費	342,410	39,525	530	3,182	530		386,178		386,178
広報費	348,883	52,332	4,361	26,166	4,361		436,104		436,104
リーフレット代	265,248	39,787	3,316	19,894	3,316		331,560		331,560
講師交通費	91,302	36,000					127,302		127,302
スタッフ交通費	1,679,865	33,775					1,713,640		1,713,640
消耗品費	689,437	28,811					718,248	9,979	728,227
諸会費	4,064	610	51	305	51		5,080		5,080
家賃	775,477	116,322	9,693	58,161	9,693		969,346		969,346
接待交際費	20,086	3,013	251	1,506	251		25,108		25,108
水道光熱費	64,750	9,712	809	4,856	809		80,937		80,937
コピー機維持費	191,670	28,751	2,396	14,375	2,396		239,588		239,588
保険料	304,946	45,742	3,812	22,871	3,812		381,182		381,182
通信運搬費	613,496	92,024	7,669	46,012	7,669		766,870		766,870
セキュリティー費用								84,240	84,240
福利厚生費								10,000	10,000
租税公課								238,800	238,800
支払手数料								80,737	80,737
事務所移転費								590,846	590,846
雑費	11,059	1,659	138	829	138		13,824	32,676	46,500
<b>その他経費計</b>	<b>7,208,820</b>	<b>602,430</b>	<b>33,026</b>	<b>198,158</b>	<b>33,026</b>	<b>0</b>	<b>8,075,461</b>	<b>1,047,278</b>	<b>9,122,739</b>
<b>経常費用計</b>	<b>10,566,356</b>	<b>1,106,060</b>	<b>74,996</b>	<b>449,974</b>	<b>74,996</b>	<b>0</b>	<b>12,272,381</b>	<b>1,213,678</b>	<b>13,486,059</b>
参考 (配布率)	0.8000	0.1200	0.0100	0.0600	0.0100	0	1.00		

2019年5月16日

特定非営利活動法人東海自然学園

代表理事 横井 進 殿

監事 藤田昌大 

### 監査報告書

2018年4月1日から2019年3月31日までの、2018年度における業務執行並びに財産及び会計の状況について、特定非営利活動促進法の定めるところにより、同法第18条並びに定款第15条の定めによって監査を行いましたので、下記の通り監査結果を報告します。

#### 記

事業報告・活動計算書・貸借対照表・財産目録及び会計諸帳簿類を精査した結果、経理処理・財産運用及び用途については、いずれも適正であり、業務については当初の目的を概ね達成できたことを認めました。

以上





## <第3号議案>

# 2019年度事業計画

(2019年4月1日～2020年3月31日)

## 【2019年度方針】

### ◎ 『東海シニア自然大学 15周年、感謝と更なる発展！』

15周年という区切りの年。派手なセレモニーは予定しないが、東海シニア自然大学に関わって下さっている方への感謝の想いを表現すると共に、今後への継続と更なる発展に繋がるよう、各科や部で意識して行事や企画を実施する。

## ① 自然活動リーダーの養成講座事業

### 東海シニア自然大学 講座部

#### ■基礎科

- ・担当スタッフの連携を深め、連絡を密にし、充実した内容で安全に運営する。
- ・合宿を含め、講師やフィールドの変更が必要な科目は全担当スタッフで事前に下見や打ち合わせをし、スムーズに当日が迎えられるよう進める。
- ・進路説明のタイミングや方法を工夫し、高等科への進学率を高める。

◇担当 8名 (+アシスタント4名)

◇人数 全74名 (2クラス)

◇実施日 年間30日間 (隔週火曜日)

#### ◇計画内容

- ・年間カリキュラムの運営・進行・安全管理。
- ・学園祭に向けてクラスの取り組み。
- ・各委員会の活動支援。
- ・振り返りなど受講生の評価を参考に、カリキュラムの改善や見直し。
- ・記録、報告書の作成。

#### ■高等科

- ・担当スタッフの連携を深め、連絡を密にし、充実した内容で安全に運営する。
- ・講師と事前に打ち合わせをし、フィールドや時間配分などの改善を提案しながら進めていく。

◇担当 5名

◇人数 35名

◇実施日 金曜日 (不定期)

#### ◇計画内容

- ・年間30日間のカリキュラムの実施。
- ・学園祭に向けて、クラスの取り組みを支援するとともに基礎科への支援。
- ・各委員会の活動支援。
- ・振り返りなど受講生の評価を参考に、カリキュラムの改善や見直し。
- ・記録、報告書の作成。

#### ■カリキュラム選択科

- ・高等科受講生を含め40名を最大人数とし、それ以上の希望がある場合は抽選とする。

#### ■専修科

- ・新たに3つの講座を加えた年間カリキュラムを、安全最優先で計画通り運営する。

- ◇担 当 3名
- ◇定 員 各21名 (一部17名)
- ◇実施日 年間9講座 (前年比+1講座) 13日 (前年数と同様)
- ◇実施内容 (カリキュラム)

- ① 足立先生と歩く名古屋自然誌ウォーク . . . . . 1回
- ② 白山信仰の里、石徹白を観る . . . . . 1回 (一泊2日)
- ③ 乗鞍・千石園地で学ぶ高山・亜高山植物 . . . . . 1回 (一泊2日)
- ④ 罎クモ&アリの不思議な生態 . . . . . 2回
- ⑤ 東海地区の湿地の成り立ちと植生 . . . . . 1回
- ⑥ 罎愛知の地質と植物の関係を考えよう . . . . . 2回
- ⑦ 七宗町地質巡り . . . . . 1回
- ⑧ シダ入門 . . . . . 1回
- ⑨ 罎霊長類の進化と多様性 . . . . . 1回

(注) : 罎は今年度の新講座

**広報**

- ◇担 当 スタッフ=4名、サポート隊=4名
- ◇方 針 積極的に新しい広報策を模索し実施する。
- ◇目 標 他の科等との連携を強化し、定員72名確保を目指す。
- ◇具体的計画

- ①募集パンフレット設置場所の見直し・開拓をする。
- ②募集パンフレットの発行数の検討・デザインの見直しを行う。
- ③メディアに投稿・取材依頼等を積極的に行う。(新聞社・テレビ局等)
- ④イオン・イエローシートのキャンペーン活動に参加する。
- ⑤体験入学の実施。1回目=12月、2回目=1月
- ⑥15周年記念に関する検討。(講師、会場、記念品など)
- ⑦サポート隊との連携を図る。

**② 普及啓発事業**

**環境教育部**

■環境教育科

- ◇担 当 4名
- ◇人 数 40名
- ◇方 針

社会貢献することを目的とし、様々なインタープリテーション技術の取得、向上を目指す。  
また、利益を追及する事業のみではなく、利益につながらなくとも自身の向上や社会貢献価値のある事業を実施する。

◇今年度の目標

- ・目標① 過去の作品やその作り方手順・必要な材料などを整理して残す。
- ・目標② ワークショップの対象者の枠を広げる。
- ・目標③ 作り方指導だけではなく、素材そのものの説明や情報を伝える工夫をする。
- ・目標④ 当学園の広報に繋がる工夫を取り入れる。

◇計画内容

定例活動は毎月2回(第2、第4水曜日)とし、その他下記の活動を計画している。

日にち	行事名	場 所	主な内容	対象
4/20(土)	戸田川緑地『さくらまつり』	戸田川緑地	野外での自然工作	1日平均

4/21(日)		(名古屋市港区)	教室(数種類)	20~50名
5/4(土)	戸田川緑地 『とだがわまつり』	戸田川緑地 (名古屋市港区)	野外での自然工作 教室(数種類)	1日平均
5/5(日)				70~100名
7/26(金)	大曽根商店街七夕まつり	大曽根商店街 (名古屋市北区)	数種類の自然工作 ワークショップ (野外ブース)	1日平均
7/27(土)				70~100名
7/28(日)				
10月~3月	なごや環境大学	—	—	全4回
10月・11月	障害者福祉施設(4件)	名古屋市内 4つの施設	出前自然工作教室	8名~21名

### ③ 調査研究事業

## 研究部

### ■自然観察科

自然観察と自然に関する座学テーマについて、自分自身の学習意欲を高め、(リーダーとして)社会貢献することを目的に、それぞれのコースにて学習・研究・実践を行う。

#### レギュラーコース

◇実施日 第2・4月曜日

◇担当 2名

◇人数 31名(新規11名)

◇目標 お互いに学びあい知識を深める。

◇活動内容

●年21回の活動日数。

昨年同様4班体制で、各班、座学2回・フィールド3回の計画。

●座学発表テーマ

自然の不思議、身近な自然、中部の自然、私が不思議に思うこと、フィールド観察会に関わること。

●フィールド

○4月 香嵐溪 ○5月 築水の森、海上の森 ○6月 竹島、トヨタの森

○7月 伊吹山 ○9月 葦毛湿原 ○10月 王滝溪谷

○11月 段戸裏谷、明德公園 ○12月 定光寺 ○1月 勅使池

●キャリアコースと合同懇親会 8月

●座学回数は、議論があるので、これを継続する。

#### キャリアコース

◇実施日 第2・4月曜日

◇担当 1名

◇人数 25名

◇目標 お互いに学び合い知識を深める。自然観察科の目的である自分自身の学習意欲を高め社会貢献できるよう年間計画を立て、学習実践する。

◇実施事項 フィールド15回、天白公園観察会6回(下見も含む)、基礎科講座「冬の森の観察」を、築水の森にて4回(下見、リハーサルも含む)実施する。

◇年間計画 ●4月 竜吟の森、昭和の森 ●5月 天白公園観察会、みたけの森

●6月 定光寺、伊吹山 ●7月 天白公園観察会、海上の森

●8月 麦とホップの会 ●9月 小幡緑地、東山植物園

●10月 天白公園観察会、面の木

●11月 各務野自然遺産の森、長良川ふれあいの森

●12月 琵琶湖周辺 ●1月 受託講座下見・リハーサル

## ④政策についての企画提案事業

### 事業部

#### ■新規事業科

◇担当 3名（必要に応じ増）

◇内容

##### 1. 新規講座の検討

「自然活動リーダーの養成講座（仮称）」を検討する。

- ・OBの皆さんが保有する経験・知識を活かして、地域活動や学園の活動でのリーダーを担える人材を養成する。
- ・年内を準備期間として2020年4月スタートを目標とする。
- ・この活動に関わる助成金申請を予定する。

##### 2. 助成金獲得活動

- 1) 「オータケ基金」2年目の申請を予定する。
- 2) 「トヨタ環境活動助成プログラム」に申請する。（6月6日締め切り）
  - ・テーマ：「シニア世代の人材を活かした自然保護活動リーダーの養成」
  - ・申請金額：約90万円（講師謝金などの運用経費も申請予定）

##### 3. OBとの連携活動

- 1) 「ケヤキ通信」への活動紹介掲載を継続
- 2) 「第2回OBとの意見交換会」開催  
「新規講座」に関する意見交換 など

##### 4. 行政との関わり活動

助成金情報や企業活動と学園との繋がりなどを意識しながらコンタクトを続ける。  
学園祭などへの招待も検討する。

### 交流部

◇担当 4名

◇年間目標

- ・OB会員の活性化、親睦を目的とした企画を考案し実施する。
- ・クラブが安全、健全に実施されるよう活動を把握し助言する。

◇実施内容

- ・OB旅行を企画実施する。
- ・クラブ長会議を開催する。（7月）
- ・新たなクラブ設立を呼びかけ、クラブを増やす。

◇各クラブの活動計画

「野鳥クラブ」

●クラブ長 榊原 孝雄（12期） 登録人員39名 会費1,000円/年

●活動方針

- ・探鳥会を年に四回開催を計画する。
- ・野鳥観察への興味を深めるため、座学1回開催する。
- ・秋の学園祭にクラブとして参加する。
- ・クラブ員同士の親睦を深める。

●活動計画

5/16「大池公園」 8月「野鳥講座」 11月「学園祭」 12月「牧野ヶ池」

1月「善師野」 3月「東山植物園」

「写真クラブ」

●クラブ長 嶋田 茂雄（9期） 登録 49名 会費 1,000円

●活動方針

- ・自然の景観・生物、これを取り巻く生活環境等を撮影し作品作りを楽しむ。
- ・活動への参加を通じて会員相互の交流と親睦をはかる。

●活動計画

- ・4/10「東山動植物園」 ・5/20「浜松フラワーパーク」 ・7/3「初歩の写真教室」
- ・7/29「伊吹山」 ・8/29「作品勉強会と懇親会」 ・9/30「常滑撮影会」
- ・10/9「五選会とグリーンピア春日井」 ・11月「学園祭」
- ・12/4「明治村」 ・3/11「岩村城下町」

「自然体験クラブ」

●クラブ長 長田 孝義（12期生） 登録人員（67名） 会費 1,000円

●活動目的

自然の中で遊び・学び、自然への理解を深め、或いは歴史・文化に触れることを通じて、豊かな人間性、心のかよった人と人のつながりを創り、人と自然が共存する文化・社会の意識を高めることを図る。

●活動方針

- ・様々な自然の中で遊び、自然を分かち合う。
- ・野菜・山菜・木の実・魚介類等の自然の恵みに感謝する。
- ・歴史・文化・自然に関する史跡・遺産等の訪問。
- ・その他目的を達成するための活動。

●活動計画

- ・4/18「総会と陶磁美術館」 ・9/19「西村自然農園」
- ・10/31「徳山湖自然環境観察会」 ・2/6「御在所岳」

「地質クラブ」

●クラブ長 福岡 潔（8期生） 登録人員（72名） 会費 1,000円

●活動方針

- ・近隣の地質の成り立ちその影響を観察する。

●活動内容

- ・年4回近隣の地質、地層を現地観察する。
- ・博物館を訪問し、岩石や化石の勉強をする。

●活動計画

- ・6月「佐久島」 ・10月「伊豆半島」 ・1月「未定」 ・3月「未定」

「植物クラブ」

●クラブ長 加藤 久盛（14期生） 登録人員（106名） 会費 1,000円

●活動方針・目標

- ・全員が観察会（年8回）へ参加し会員相互の友好を深める。
- ・自然とふれあい、自然を楽しむ。

●活動計画

- ・4/24「鳥居峠」 ・5/15「海上の森」 ・6/14「飛騨小坂」 ・7/5「白馬高山植物園」
- ・8/6「霧ヶ峰」 ・9/30「土岐」 ・11/8「山門水源の森」 ・3/ 「東山植物園」

「植物アートクラブ」

●クラブ長 松崎 隆（13期生） 登録人員（23名） 会費 2,000円

●活動方針・目標

- ・絵を描くことに基礎はありません、絵を描きたいという気持ちが基礎です、従って描いた絵の評価は自分自身でしか出来ません。完成した絵は、毎日見ていろいろのことを考え、感じて楽しむことです。

●活動内容

- ・植物の特徴をとらえ、それを描くことにより表現の楽しさを知る。
- ・月毎の課題に沿って作品を仕上げる。
- ・全員の作品を鑑賞し、講師の講評・助言を通し作品の質を高め、また親睦を図る。

- ・学園祭において作品の展示を行う。

●活動計画

- ・日程 毎月第4木曜日  
4/25、5/23「野外スケッチ」、6/27、7/25、8/22、9/26、10/24、11/28、12/26、  
1/23、2/27、3/26、
- ・主な活動場所「名古屋市福祉会館」

「ふふふ キラキラクラブ」

- クラブ長 清水 修(7期生) 登録人員(44名) 会費1,000円

●活動方針・目標

活動の目的であります『ふふふ』の笑顔を持って会員相互の交流と親睦をはかり、『キラキラ』と輝く人生を見つけましょう。

●活動内容

自然を愛し、自然から何か感動を受け、その感動を分かち合う。

●活動計画

時期・詳細は計画中

「自然句詠クラブ」

- クラブ長 深見 秋男(11期生) 登録人員(22名) 会費1,000円

●活動方針・目標

- ・自然を愛(め)で、その感動を575(俳句)に表現し楽しむ。
- ・メンバー全員が何らかの役割を担い、クラブの運営に主体的に参画する。

●活動計画

- ・月1回(月末)、句を持ち寄り句会を実施する(互いに講評し合う)。
- ・句会実施日に終了後、希望者で反省懇親会を実施する。
- ・句会のうち、年3回程度、吟行(現地に赴き作句し句会を実施)を行う。
- ・一年のまとめとして句集を編集する。

「湿地クラブ」

- クラブ長 原田 誠(9期生) 登録人員(33名) 会費1,000円

●活動内容

- ・「北山湿地」湿地定点観察会(湿地動植物および昆虫)
- ・その他観察会
- ・湿地整備体験活動

●活動計画

- ・4/17「北山湿地」
- ・6月「北山湿地」
- ・7/3「山室湿地」
- ・6月「北山湿地」
- ・10月「計画中」
- ・1月「計画中」

「ハイキングクラブ」

- クラブ長 栗田 博之(13期生) 登録人員(67名) 会費1,000円

●活動方針

- ・自然観察及び散策、町の歴史探訪を通して自然や歴史にふれあい知識を高める。
- ・体力の維持及び増進。
- ・活動への参加を通じて会員相互の交流と親睦をはかる。

●活動計画

- ・6/20「常滑やきもの散策」
- ・9/12「関ヶ原古戦場」
- ・11/21「美濃市うだつの町」
- ・3/19「三河湾3島巡り」

## ⑤自然環境保全事業

### 自然保護部

#### ■森林公園整備科

◇活動日 毎月第2・第4木曜日

◇科員数 31名

◇活動計画

●A地区で植生調査実施及び森林整備活動を継続

●活動内容

- ・班単位で植生調査結果に基づいた森林整備計画を作成
- ・整備計画に沿い、且つ修正しながら伐採を実施
- ・整備地内の植生観察を班単位で実施
- ・植生調査内容発表等で学園祭に参加
- ・高等科の講座実習を受け入れ
- ・科員の交流・親睦を深める
- ・第70回全国植樹祭へボランティア参加

●安全への取り組み

- ・安全作業マニュアル読み合わせによる周知徹底継続
- ・ヒヤリハット運動を展開

#### ■瀬戸里山整備科

年間計画をリーダーを中心として作成し、竹林部分、雑木林部分の作業日を意識して設定し実施する。急斜面の作業が多いため、安全作業を最優先としていく。

◇担当 2名

◇登録人数 24名

◇実施日 第3土曜日、但し雨天の場合は、予備日第4土曜日

◇活動場所 瀬戸市曾野町

◇活動内容

- ① 安全作業を最優先とし、作業前、作業後のヒヤリハットの徹底。
- ② タケの成長期間を年別に分類し印をつけ、優先順位を付けた活動を行う。
- ③ 定点観測の実施を行い、作業の進捗状況、整備後の成果をつかむ。
- ④ 活動報告書を作成し、科員の増員、科員の親睦を図る。
- ⑤ 竹林部分、雑木林部分の活動日を設定し整備を行う。
- ⑦ 昨年好評だった門松づくりを本年も実施。
- ⑧ 学園祭に参加をしていくため、係を選任していく。

## ⑥その他目標を達成するために必要な事業

該当事業計画なし



2019年度活動予算書

(2019年4月1日から2020年3月31日)

特定非営利活動法人 東海自然学園

(単位:円)

科目	金額		注釈
I 経常収益			
1. 受取会費			正会員 25名 利用会員481名
正会員受取会費	125,000		
利用会員受取会費	1,443,000	1,568,000	
2. 受取寄付金			
受け取り寄付金	400,000	400,000	
3. 受取助成金収入			
受け取り助成金	200,000	200,000	
4. 事業収入			
自然活動リーダー養成講座授業収益	10,775,000		
普及啓発事業収益	250,000		
調査研究事業収益	0		
政策についての企画提案事業収益	50,000		
自然活環境保全事業収益	0		
その他事業収益		11,075,000	
5. その他収益			
雑収入	0		
受取利息	0	0	
経常収益計			13,243,000
II 経常費用			
1. 事業費			消費税分
(1)人件費			
給料手当	3,670,000		
通勤手当	156,000		
法定福利費	600,000		
人件費計	4,426,000		
(2)その他経費			
謝礼金	1,700,000		
教材費	250,000		
会場費	500,000		
広報費	600,000		
リーフレット代	370,000		
講師交通費	110,000		
スタッフ交通費	1,700,000		
バス代	50,000		
消耗品費	400,000		
雑費	20,000		
家賃	960,000		
接待交際費	30,000		
水道光熱費	100,000		
コピー維持費	250,000		
保険料	400,000		
通信運搬費	700,000		
諸会費	10,000		
研修費	10,000		
その他経費計	8,160,000		
事業費計		12,586,000	
2. 管理費			
(1)人件費			
給料手当	170,000		
人件費計	170,000		
(2)その他の経費			
セキュリティ料	85,000		
事務用品費	10,000		
租税公課	230,000		
支払手数料	85,000		
雑費	10,000		
その他経費計	420,000		
管理費計		590,000	
経常費用計			13,176,000
当期経常増減額			67,000
III 経常外収益			0
IV 経常外費用			0
当期正味財産増減額			67,000
前期繰越正味財産額			8,503,750
次期繰越正味財産額			8,570,750

<第5号議案>

2019年度役員選任

2019年度の役員として下記の方を選任致します。

- ・ 代表理事 横井 進
- ・ 筆頭理事 伊藤 準二
- ・ 理事 上田 元己
- ・ 理事 小田 光生
- ・ 理事 吉村 至衛
- ・ 理事 朝田 泰
- ・ 理事 福岡 潔
- ・ 理事 吉田 誠司
- ・ 理事 森下 保男
- ・ 理事 胡内 友文
- ・ 理事 中野 治男
- ・ 監事 大熊 琢巳

その他報告事項

上記役員以外の2019年度正会員

- ◆ 佐合 ひとみ (7期生)
- ◆ 高島 裕美子 (9期生)
- ◆ 岩田 敏子 (11期生)
- ◆ 吉川 卷子 (11期生)
- ◆ 雑賀 典子 (11期生)
- ◆ 堀部 和裕 (12期生)
- ◆ 森 静枝 (12期生)
- ◆ 鈴木 好則 (13期生)
- ◆ 林 昌子 (13期生)
- ◆ 伊豆原 英子 (14期生)
- ◆ 祖父江 洋子 (14期生)
- ◆ 中川 員 (14期生)
- ◆ 波多野 桂一 (14期生)